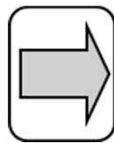


管内經濟情勢報告










令和 6 年 1 月
財務省 四国財務局

四国財務局管内経済情勢報告

| | 令和5年10月判断 | 令和6年1月判断 | 総括判断の要点 | 10月判断との比較 |
|------|-----------|----------|--|---|
| 総括判断 | 持ち直している | 持ち直している | <p>個人消費は、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっているほか、観光も緩やかに回復していることから、全体としては持ち直している。</p> <p>生産活動は、パルプ・紙が弱含んでいるものの、化学が緩やかに持ち直しつつあるほか、食料品が持ち直しつつあることから、全体としては一進一退の状況にある。</p> <p>雇用情勢は、緩やかに持ち直している。</p> |  (2期連続据え置き) |

〔先行き〕

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直しが続くことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

| 項目 | 令和5年10月判断 | 令和6年1月判断 | 10月判断との比較 |
|------|----------------|----------------|---|
| 個人消費 | 持ち直している | 持ち直している |  |
| 生産活動 | 一進一退の状況にある | 一進一退の状況にある |  |
| 雇用情勢 | 緩やかに持ち直している | 緩やかに持ち直している |  |
| 公共事業 | 前年度を下回っている | 前年度を上回っている |  |
| 住宅建設 | 前年を下回っている | 前年を上回っている |  |
| 設備投資 | 5年度は前年度を上回る見込み | 5年度は前年度を上回る見込み |  |
| 企業収益 | 5年度は減益見込み | 5年度は減益見込み |  |

※ 6年1月判断は、前回5年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

個人消費

個人消費 持ち直している

(2期連続据え置き)

- スーパーは、衣料品等が弱い動きとなっているものの、飲食料品が堅調であることから、全体としては堅調となっている。
- コンビニエンスストアは、飲料品や米飯類等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。

〔主なヒアリング結果〕

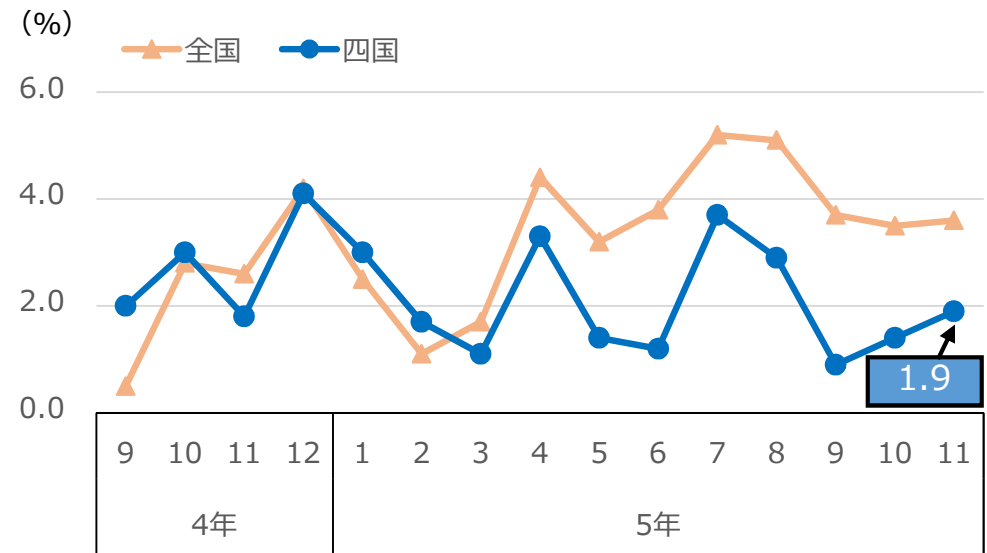
「スーパー」

- 残暑や暖冬の影響により、秋冬衣料品や暖房用品の売れ行きが悪い。
- コロナ5類移行に伴う外出需要が継続しており、キャリーバッグ、化粧品などの売れ行きがよい。
- 気温が高く推移したため、白ネギや大根、鍋スープなどの鍋物商材の売れ行きが悪い一方、飲料やアイスクリームは販売好調であった。
- 中食需要の定着や野菜の相場高などから、総菜の売上が好調。

「コンビニエンスストア」

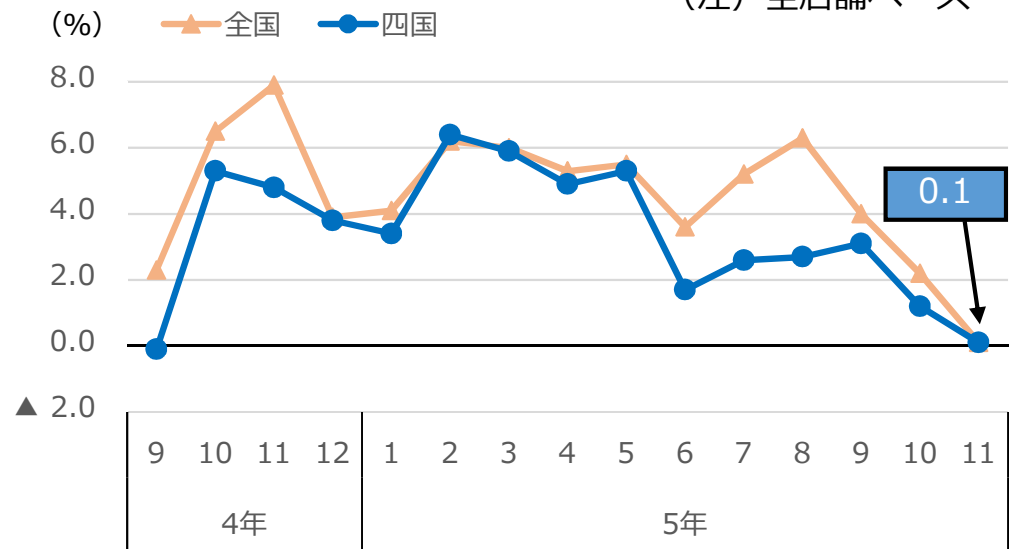
- コロナ5類移行による人流回復で、引き続きペットボトル飲料やおにぎりの売れ行きがよい。
- 気温が去年よりも高かったため、伸びるべき商材（温かい麺類）が伸びなかったが、飲料やアイスクリームは販売好調であった。

〔スーパー販売額（前年同月比）〕 (注) 全店舗ベース



〔コンビニエンスストア販売額（前年同月比）〕

(注) 全店舗ベース



【出所】 経済産業省、四国経済産業局

個人消費

- ドラッグストアは、販売促進効果などから飲食料品に動きがみられるほか、化粧品が持ち直していることから、全体としては好調となっている。
- 家電大型専門店は、一部の高付加価値製品に動きがみられるものの、消費行動の多様化などから、全体としては弱含んでいる。
- ホームセンターは、暖房用品等の動きが弱いものの、行楽用品等に動きがみられることから、全体としては底堅いものとなっている。

〔主なヒアリング結果〕

《ドラッグストア》

- 売場面積拡大や商品数増加などの取組みにより、冷凍食品をはじめとした食品全般の売れ行きがよい。
- 外出機会やマスクを外す機会が増加したことで、化粧品全体の売上が回復している。

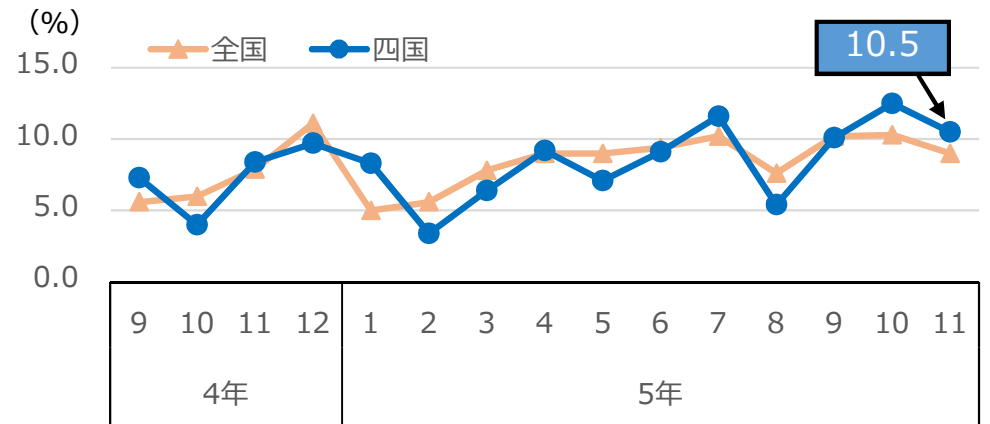
《家電大型専門店》

- 暖冬のためエアコンの売れ行きが良くなかった。
- 高付加価値・高機能製品へのニーズは引き続き高いものの、物価高による買い控えや、外出需要の高まりから消費者の意識がレジャー消費へ向いており、耐久消費財の需要が落ちている。

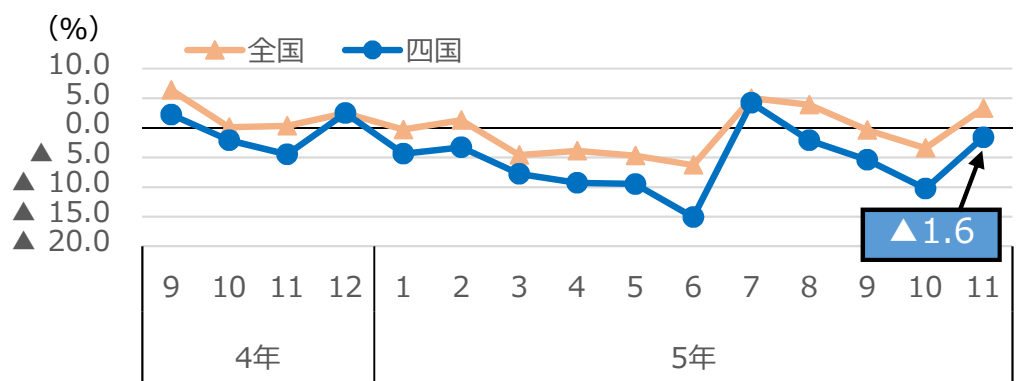
《ホームセンター》

- 残暑、暖冬の影響で暖房用品等が不調。
- 気温が高かったことで、クーラーボックスなどを中心に行楽用品が好調。人が集まるイベントが復活したため、屋外家具も好調。

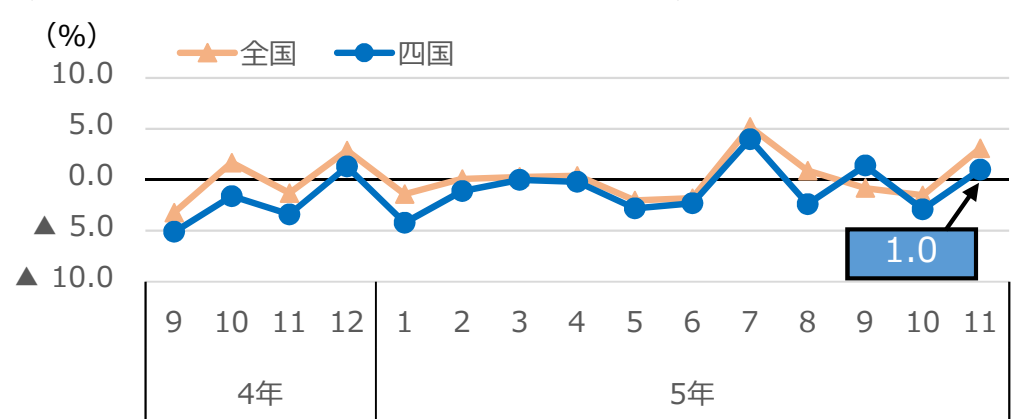
〔ドラッグストア販売額（前年同月比）〕（注）全店舗ベース



〔家電大型専門店販売額（前年同月比）〕（注）全店舗ベース



〔ホームセンター販売額（前年同月比）〕（注）全店舗ベース



【出所】経済産業省、四国経済産業局

個人消費

- 百貨店は、衣料品等の動きが弱いものの、高額品等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。
- 乗用車の新車登録・届出台数は、小型車は前年を下回っているものの、普通車及び軽乗用車は前年を上回っており、全体としても前年を上回っている。
- 観光は、外国人観光客の増加により、緩やかに回復している。
- 国内旅行は、回復しつつあり、海外旅行は、緩やかに持ち直しつつある。

〔主なヒアリング結果〕

《百貨店》

- 暖冬の影響で冬物衣料の動き出しが鈍かったものの、外出機会の増加から化粧品販売が好調であるほか、ブランドバッグや高級時計についても引き続き好調。

《乗用車》

- 半導体不足や部品調達難が回復に向かっており、生産が正常化しつつあることで、登録台数は増加している。

《観光》

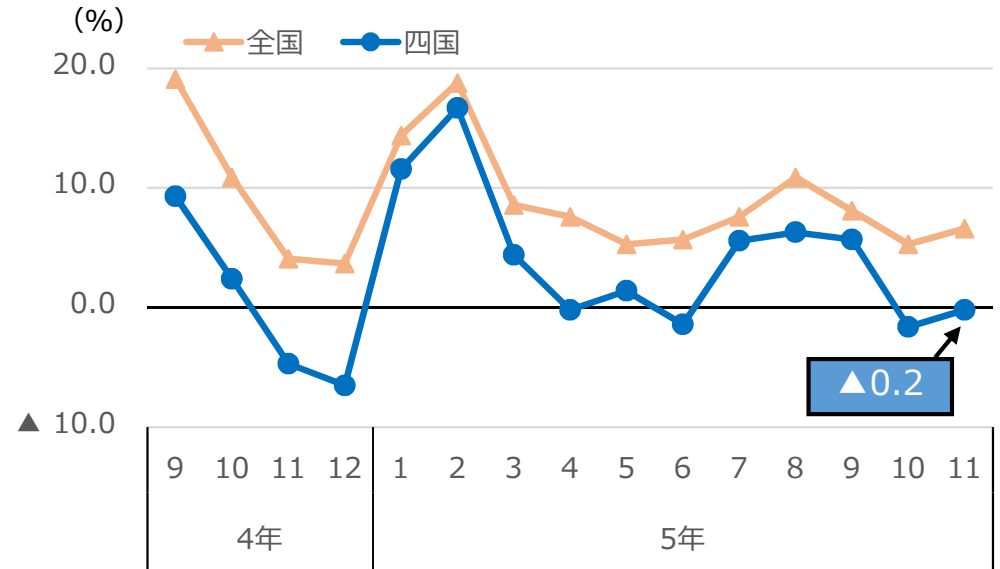
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行による観光需要の高まりや、円安による外国人観光客の急増などがあり、好調である。

《旅行》

- 国内旅行取扱高は、新型コロナウイルス感染症の5類移行による旅行需要の回復から、前年を上回った状態が続いている。

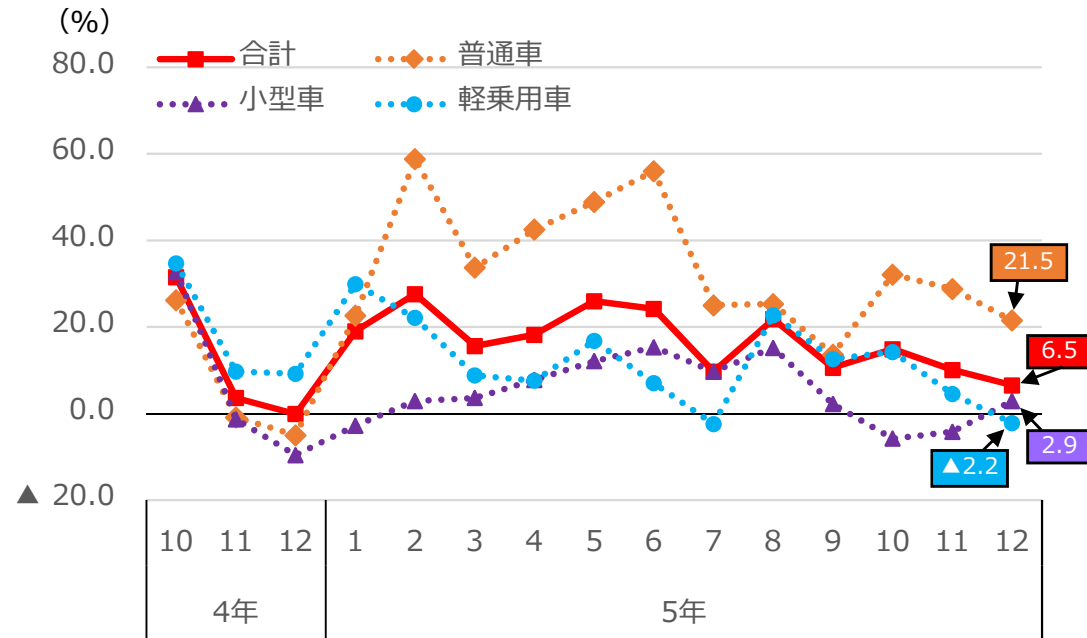
- 回復途上ではあるが、海外旅行の需要は戻ってきている。

〔百貨店販売額（前年同月比）〕 (注) 全店舗ベース



【出所】 経済産業省、四国経済産業局

〔四国の乗用車新車登録・届出台数（前年同月比）〕



【出所】 四国運輸局の公表データから算出

生産活動

生産活動

一進一退の状況にある

(2期連続据え置き)

○化学は、医薬品に動きがみられることから、緩やかに持ち直しつつある。食料品は、堅調な需要を背景に、持ち直しつつある。パルプ・紙は、印刷用紙等に弱さがみられることから、弱含んでいる。こうしたことから、全体としては一進一退の状況にある。

〔主なヒアリング結果〕

「化学」

○医薬品は国内需要、海外需要ともに順調であり、生産量は増加している。

「食料品」

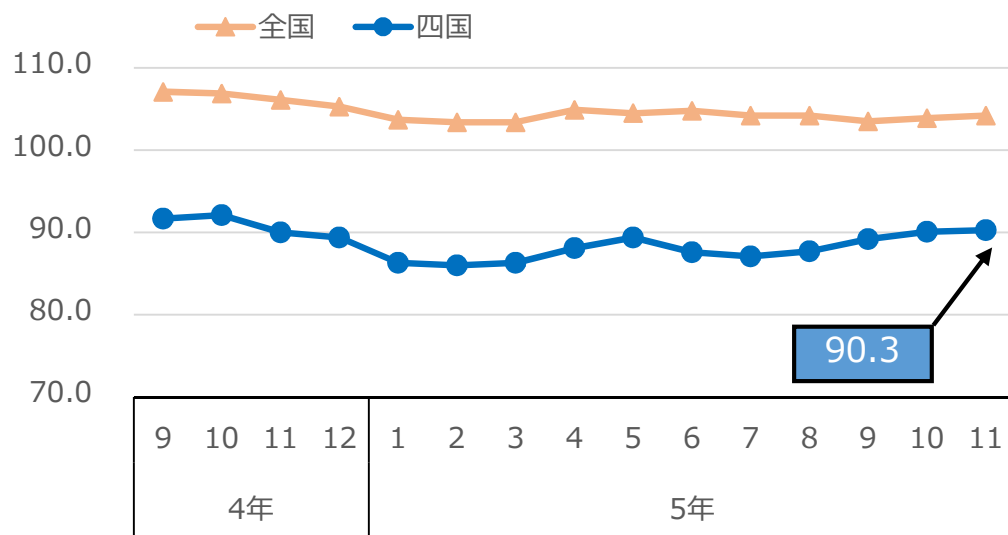
○冷凍食品は手軽さなどから人気が高く、受注状況は引き続き好調。

「パルプ・紙」

○ペーパーレス化や値上げによる買い控えにより、需要が低下している。

〔鉱工業生産指数（季節調整済指数、3か月移動平均）〕

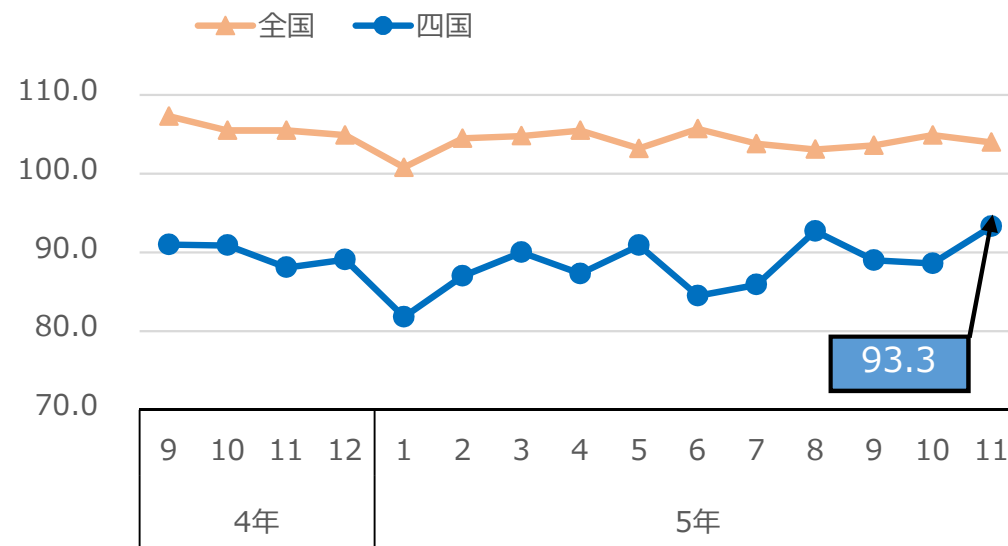
(四国：平成27年=100、全国：令和2年=100)



【出所】経済産業省、四国経済産業局の公表データから算出

〔鉱工業生産指数（季節調整済指数、単月）〕

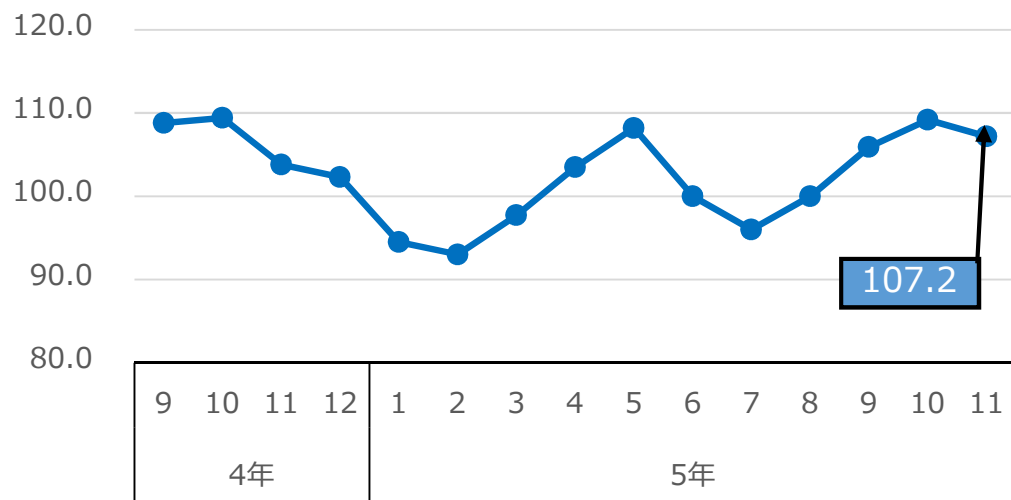
(四国：平成27年=100、全国：令和2年=100)



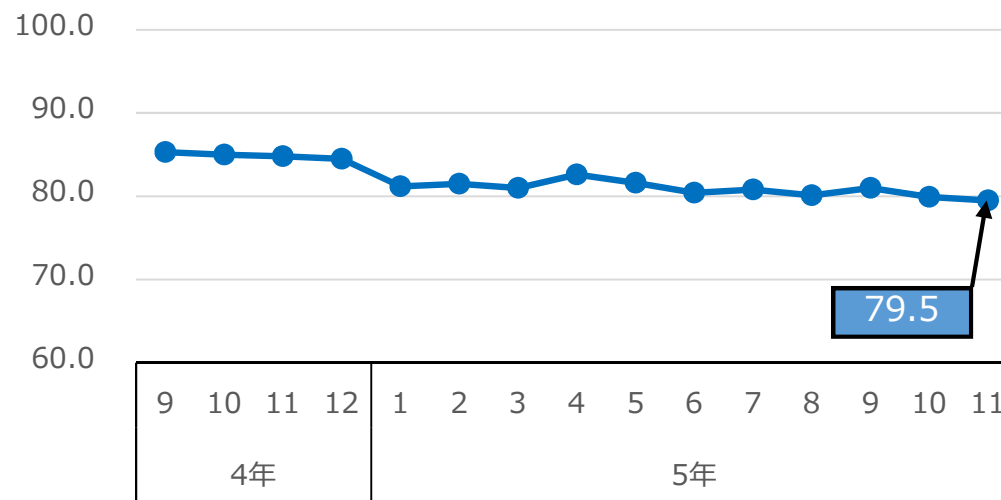
【出所】経済産業省、四国経済産業局

生産活動

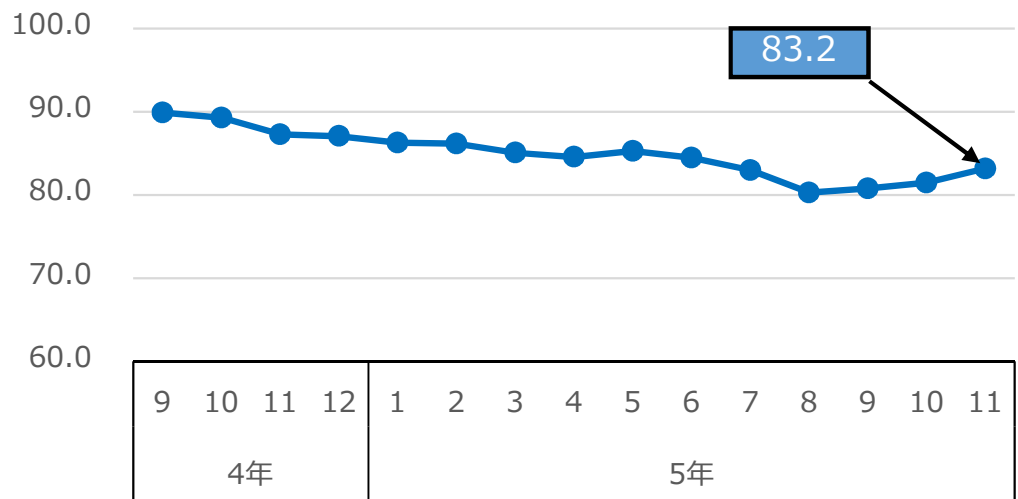
〔化学・石油石炭〕



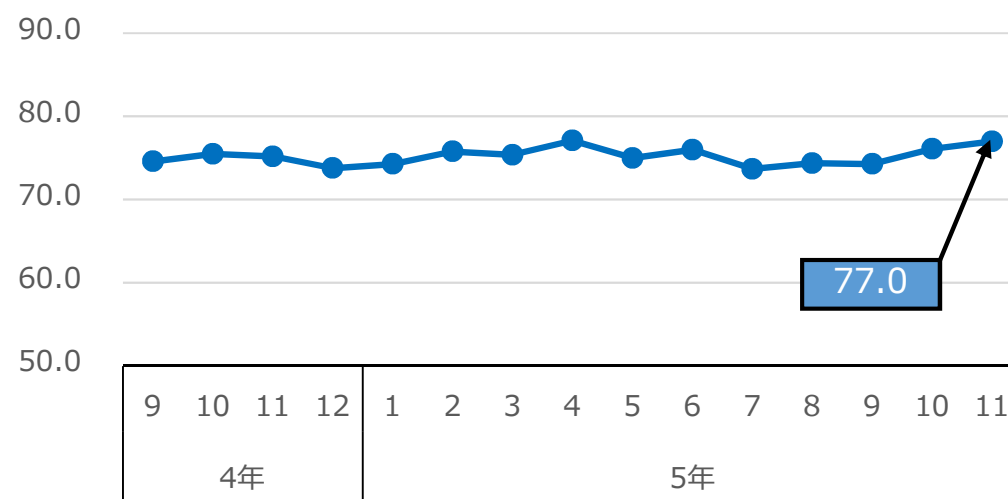
〔食料品〕



〔パルプ・紙〕



〔電気機械〕



(季節調整済指数、3か月移動平均、四国：平成27年=100) 【出所】四国経済産業局の公表データから算出

雇用情勢

雇用情勢

緩やかに持ち直している

(5期連続据え置き)

- 有効求人倍率は横ばいとなっている。
- 新規求人数は前年を下回っている。
- 法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIをみると、12月末は全産業で33.4%ポイントと「不足気味」超となっている。

〔主なヒアリング結果〕

《労働局》

○物価高に伴うコスト増加により、人件費を抑えるために求人提出を控える動きが一部の業種で見られるが、新規求人数の減少は、前年の反動などによるものも多く、様々な業種で人手不足感が続いている。

○物価高による生活防衛のため、パートや年配の方を中心により良い条件を求めて求職する動きが続いている。

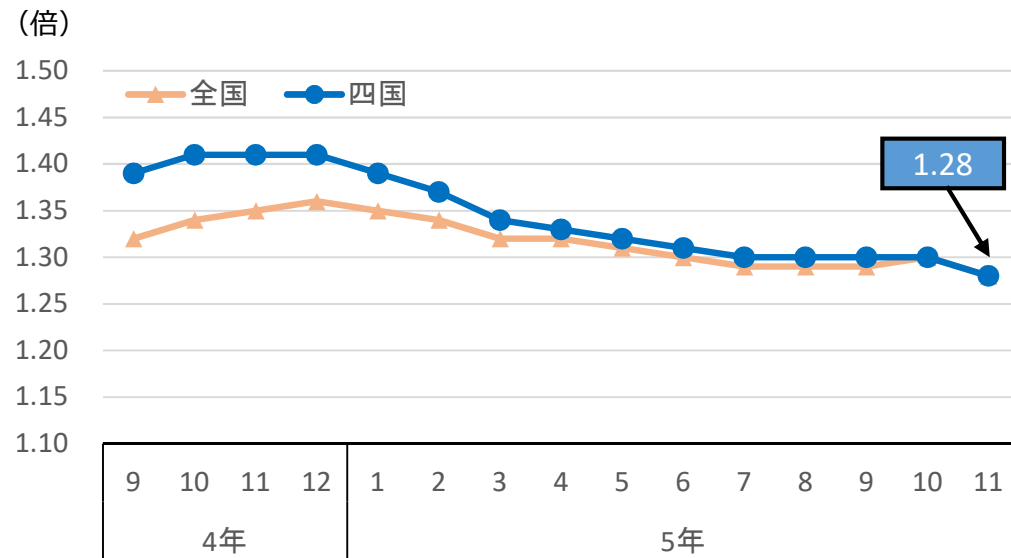
《生活関連サービス業》

○旅行者数増加により、窓口対応をする人材が不足している。採用活動の強化や人員の配置の工夫で対応している。

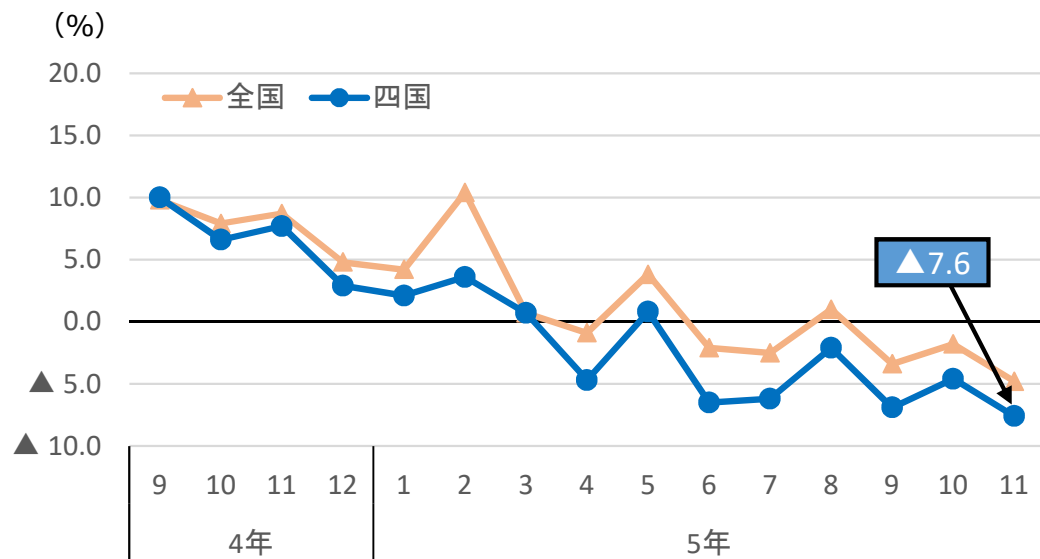
《その他の輸送用機械器具製造業》

○ベースアップは行っているものの、都会に出る若者が多いこともあり思うように採用活動が進んでいない。

〔有効求人倍率（季節調整値）〕



〔新規求人数（原数値、前年同月比）〕



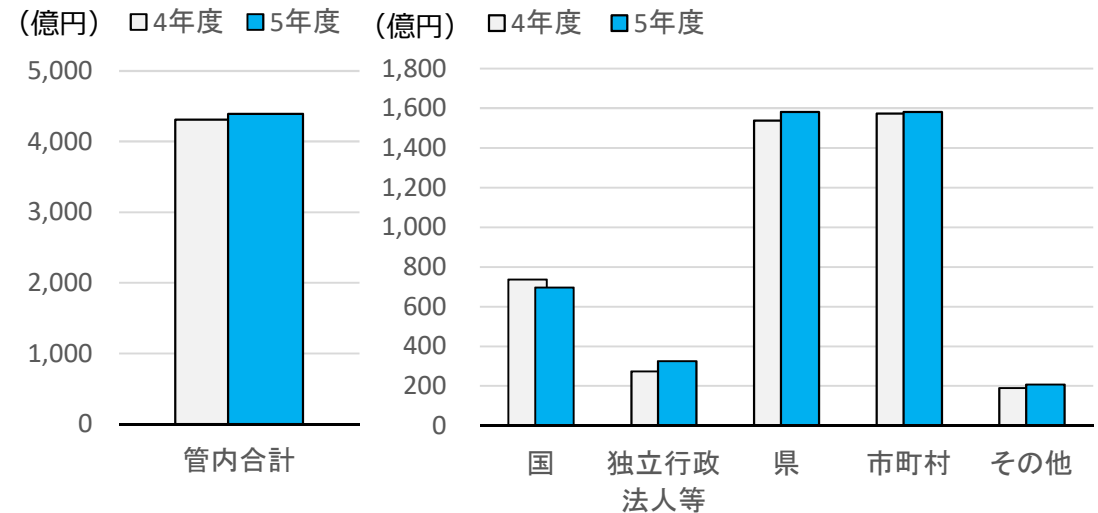
【出所】厚生労働省の公表データから算出

公共事業・住宅建設

公共事業 前年度を上回っている

○前払金保証請負金額でみると、国は前年度を下回っているものの、市町村は前年度並みとなっており、独立行政法人等及び県は前年度を上回っていることから、全体としても前年度を上回っている。

〔四国の公共工事前払金保証請負金額（12月累計額）〕

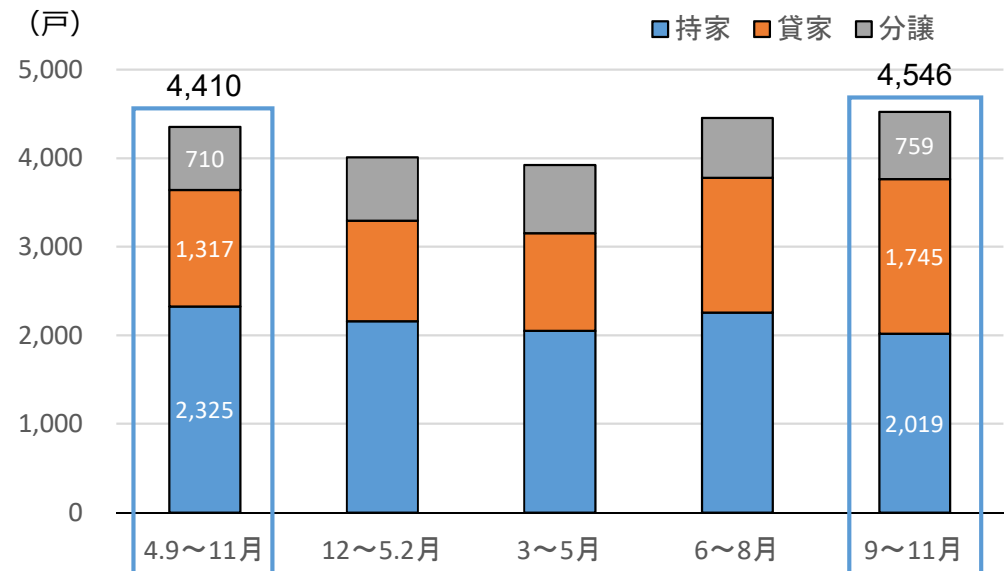


【出所】西日本建設業保証（株）等

住宅建設 前年を上回っている

○新設住宅着工戸数でみると、持家は前年を下回っているものの、貸家及び分譲は前年を上回っており、全体としても前年を上回っている。

〔四国の新設住宅着工戸数〕



※合計は給与住宅を含む

【出所】国土交通省の公表データから算出

〔主なヒアリング結果〕

○資材価格上昇による住宅価格の値上がりなどによって、住宅購入のマインドが低下している。

設備投資・企業収益・企業の景況感

設備投資

5年度は前年度を上回る見込み

○5年度の「設備投資」は、製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

企業収益

5年度は減益見込み

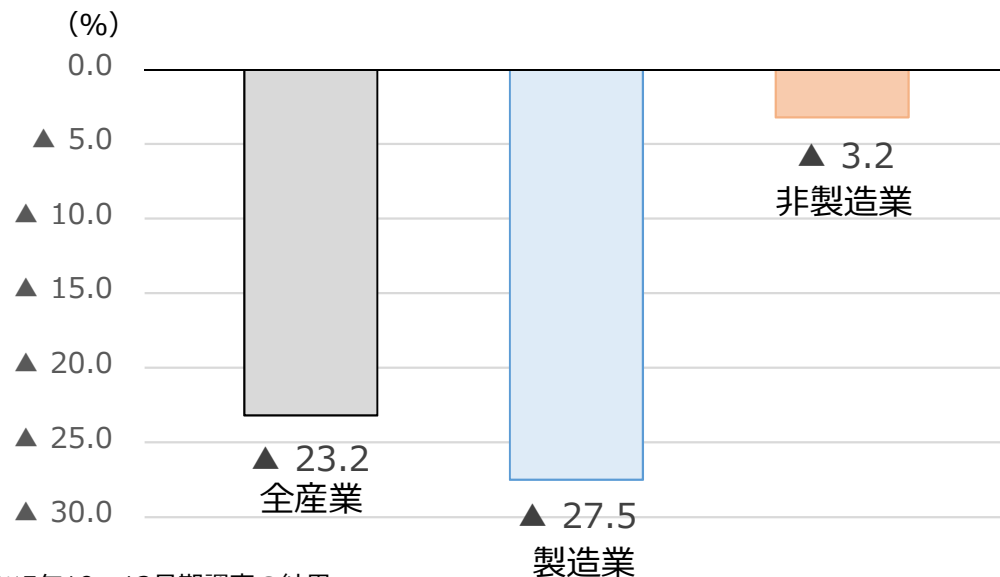
○5年度の「経常利益」は、製造業及び非製造業で減益見込みとなっており、全体としても減益見込みとなっている。

企業の景況感

「上昇」超

○5年10～12月期は、製造業及び非製造業で「上昇」超となっており、全体としても「上昇」超となっている。

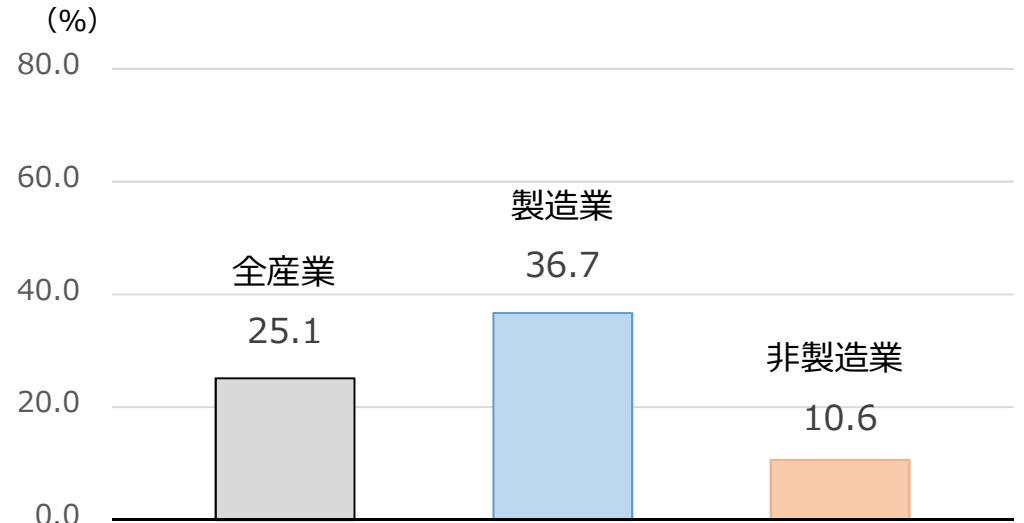
〔経常利益（四国、前年度比）〕



※5年10～12月期調査の結果

※「電気・ガス・水道」、「金融、保険」を除く管内に本社が所在する企業

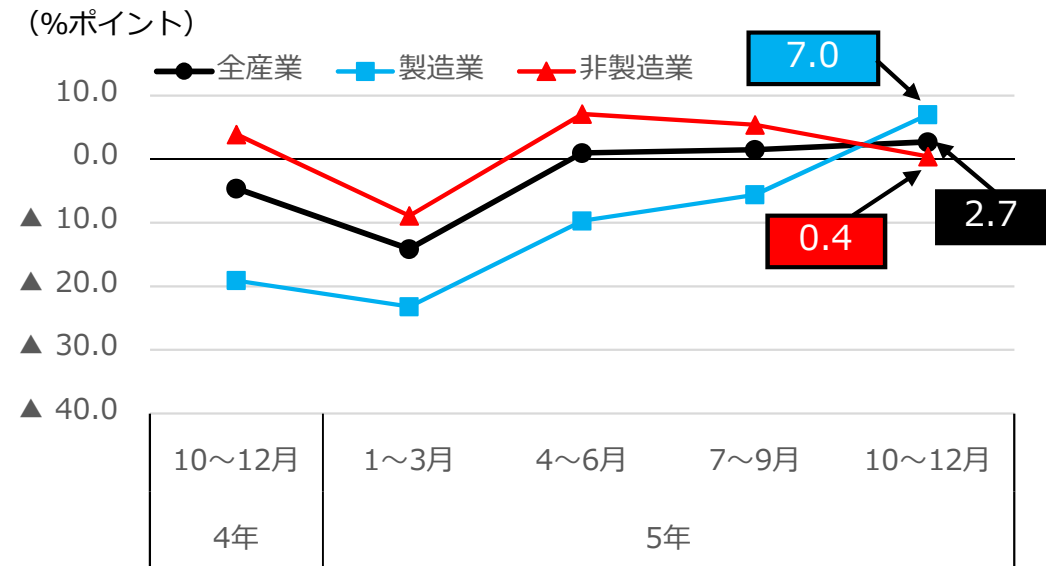
〔設備投資（四国、前年度比）〕



※5年10～12月期調査の結果

※ソフトウェア含む、土地除く

〔企業の景況判断BSI（四国）〕



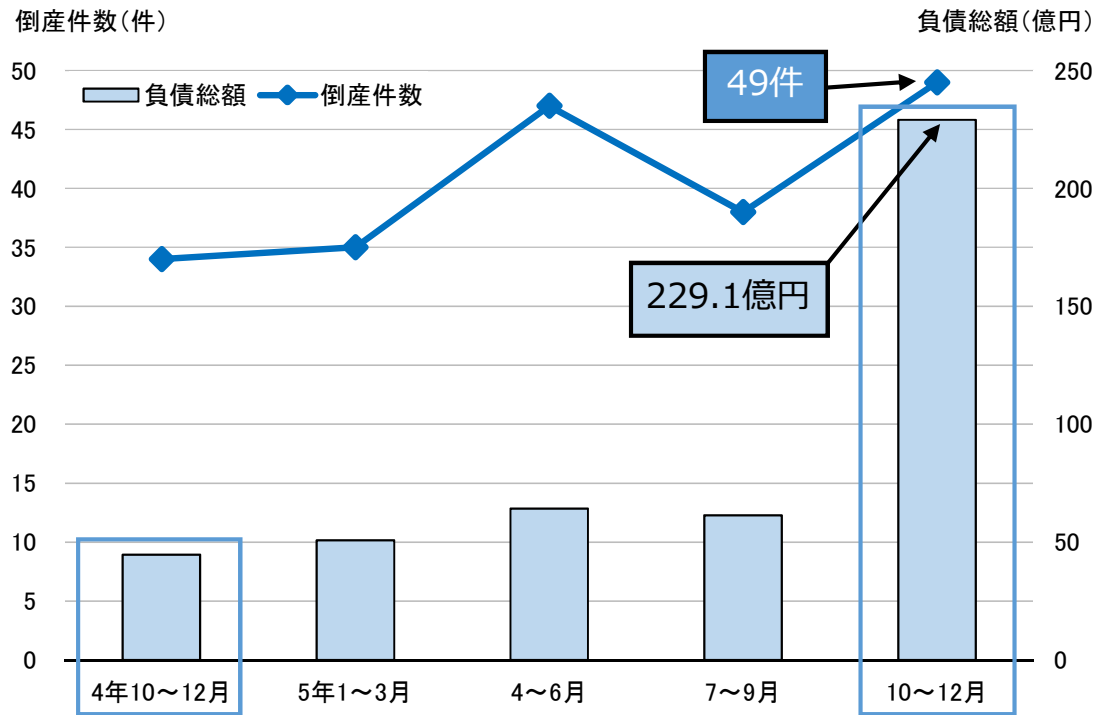
【出所】四国財務局（法人企業景気予測調査）

企業倒産・消費者物価（参考）

企業倒産

件数、負債総額ともに前年を上回っている

〔四国の倒産件数・負債総額（負債額1,000万円以上）〕

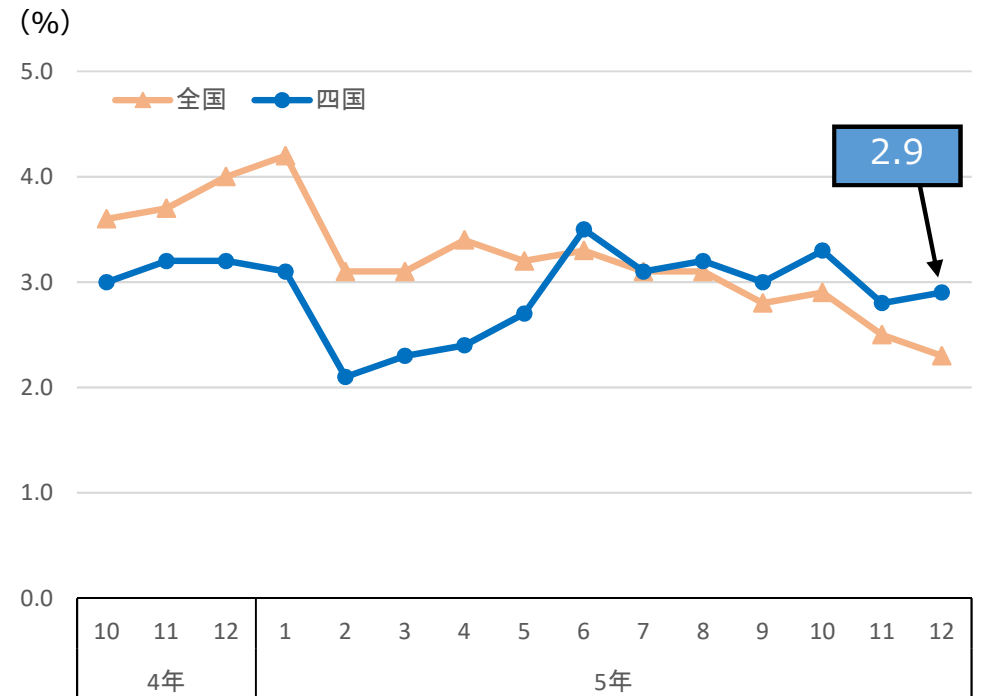


【出所】東京商工リサーチの公表データから算出

消費者物価

前年を上回っている

〔消費者物価指数（生鮮食品を除く総合、前年同月比）〕



(2020年 = 100) 【出所】総務省

※計数は、季節調整替え、基準改定、速報の確報化、誤計数の判明等により、過去に遡って訂正される場合があるので、利用される場合は、各発表機関の直近の公表データをご確認ください。

■お問い合わせは

電話番号 087-811-7780

財務広報相談室（内線260）又は 経済調査課（内線250）へ

ホームページアドレス <https://lfb.mof.go.jp/shikoku/>

